

第2章：四万十町の社会的現況

1. 四万十町の位置及び地勢

1) 位置と地勢

本町は高知県西部の四万十川中流域にあり、県土を横断するように北西は愛媛県に接し、東南は土佐湾に面している。

町域は東西 43.7km、南北 26.5km、総面積 642.28 km²であり、そのうち林野が 87.1%を占め、田畑は 4.8%を占めるに過ぎない。集落の多くは四万十川とその支流の河川沿いや台地上にあり、一部は土佐湾に面する海岸部にある。

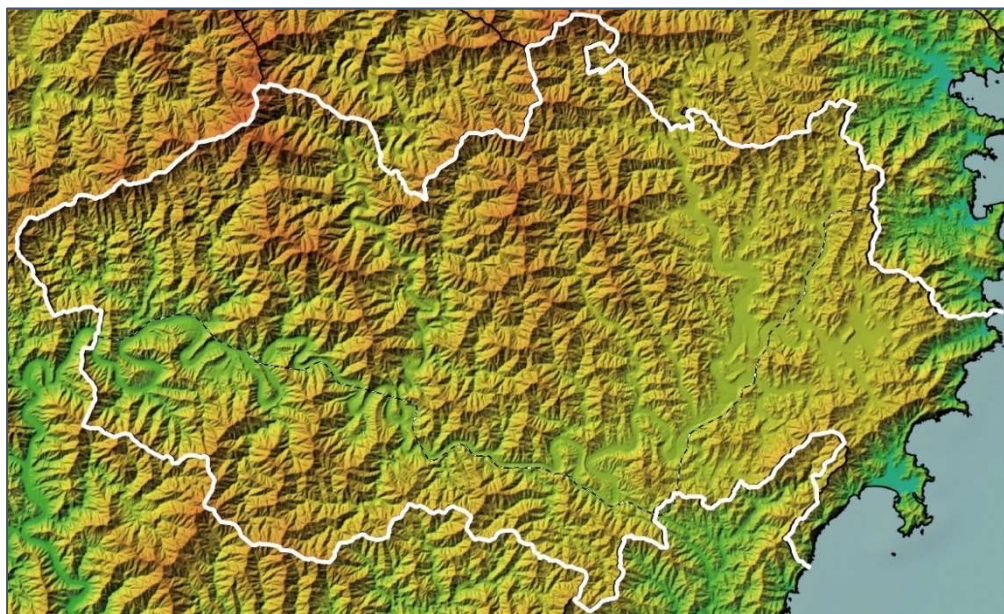


平成 18 年（2006 年）に高岡郡窪川町と幡多郡大正町、十和村の 2 町 1 村で合併した。本町東部（窪川地区）は、中央部を南流する四万十流域の標高 230m の高南台地に位置し、約 2,000ha の農地が広がっている。

本町中部（大正地区）は、旧幡多郡の北部「北幡地域」に位置し、平野は四万十川、梶原川沿いにわずかに見られるが、そのほとんどを山林が占めている。

本町西部（十和地区）は、地区の中心部を東から西に四万十川が蛇行して流れ、流域沿いに農地が点在しているが、総面積の約 9 割を山林が占めている。

図：四万十町の地勢

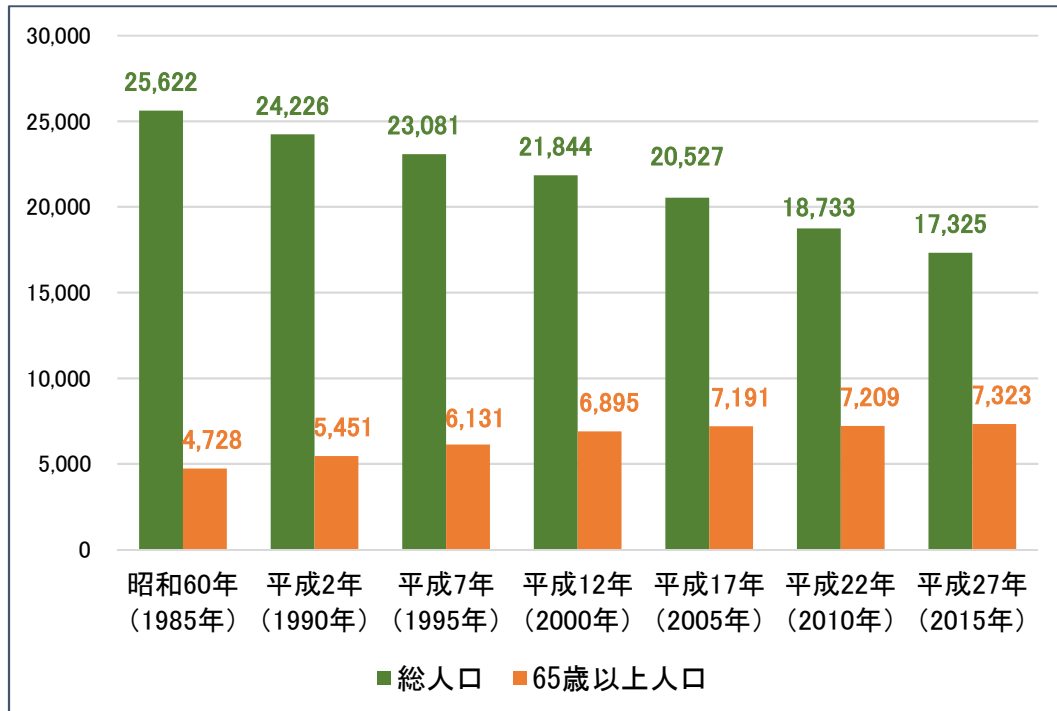


2. 人口及び世帯数

1) 人口と世帯数の推移

本町の人口は、昭和 30 年（1955 年）当時の構成自治体（窪川町、大正町、十和村）の合計で 41,000 人を超える人口を抱えていたが、その後は一貫して減少傾向にある。平成 2 年調査結果以降は、前回調査結果に比べて 1,000 人を超える減少数となっている。

図：人口の推移



出典：国勢調査結果

表：人口と世帯数の推移

	昭和 60 年 (1985 年)	平成 2 年 (1990 年)	平成 7 年 (1995 年)	平成 12 年 (2000 年)	平成 17 年 (2005 年)	平成 22 年 (2010 年)	平成 27 年 (2015 年)
総人口 (人)	25,622	24,226	23,081	21,844	20,527	18,733	17,325
人口減少数 (人)	816	1,396	1,145	1,237	1,317	1,794	1,408
一般世帯数 (世帯)	8,316	8,371	8,359	8,318	8,187	7,736	7,428
世帯当人員 (人)	3.05	2.85	2.72	2.58	2.45	2.35	2.25

注) 人口減少数は前回調査時との比較で算出。昭和 60 年の減少数は昭和 55 年との比較

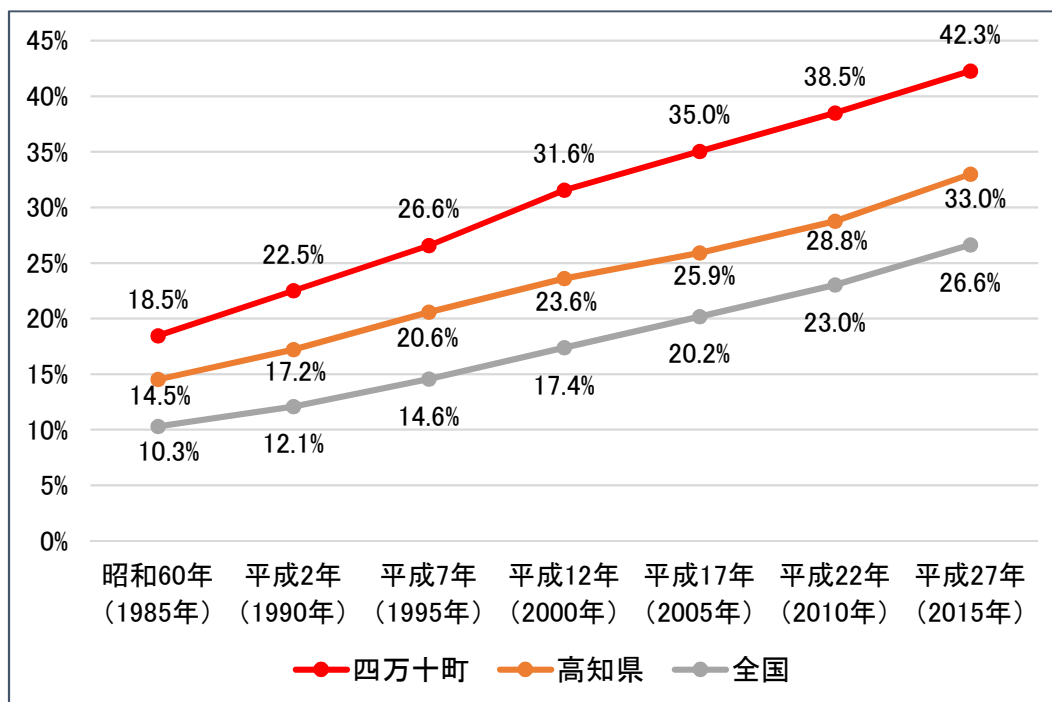
出展：国勢調査結果

2) 高齢化率

本町の人口が減少傾向にある中で、65 歳以上の人口は増加しており、年を追う毎に高齢化率が高くなっている。

平成 12 年の国勢調査結果において高齢化率が 30%を超え、平成 27 年には 42.3%となった。本町の高齢化は、高知県と比較して約 10 年強、全国と比較して約 20 年早く進行している。

図：高齢化率の推移



出典：国勢調査結果

表：四万十町の人口と高齢化率の推移

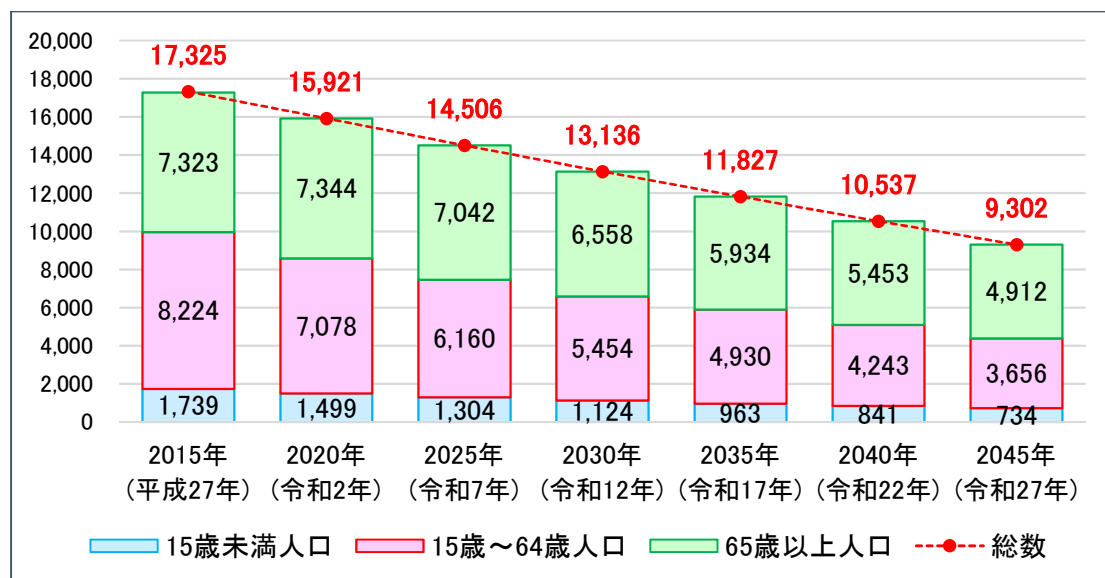
	昭和 60 年 (1985 年)	平成 2 年 (1990 年)	平成 7 年 (1995 年)	平成 12 年 (2000 年)	平成 17 年 (2005 年)	平成 22 年 (2010 年)	平成 27 年 (2015 年)
総人口 (人)	25,622	24,226	23,081	21,844	20,527	18,733	17,325
65 歳以上 (人)	4,728	5,451	6,131	6,895	7,191	7,209	7,323
高齢化率 (%)	18.5	22.5	26.6	31.6	35.0	38.5	42.3

出典：国勢調査結果

3) 人口の将来推計

国立社会保障人口問題研究所が発表している将来推計人口では、本町の人口は引き続き減少し、2045年には10,000人を下回り9,302人に減少する予測がなされている。2035年には高齢者の数は5,934人となり高齢化率が50%を超える予測となっている。

図：年齢区分別将来人口の推移

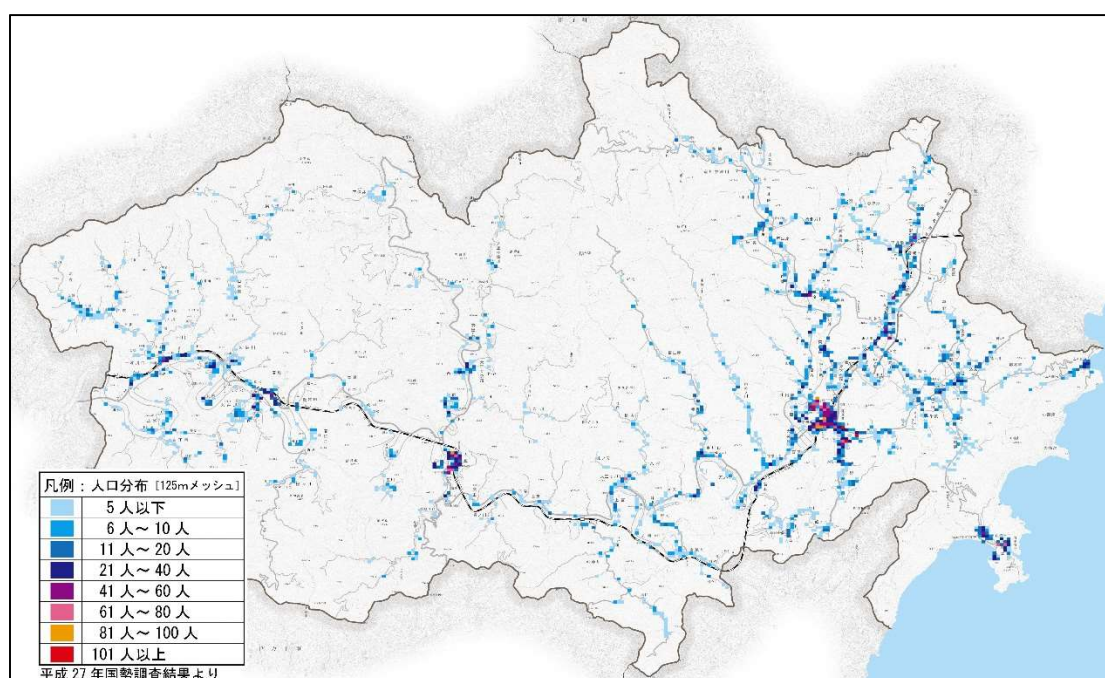


出典：平成27年国勢調査結果、日本の地域別将来推計人口

4) 地区別人口分布

本町の人口分布は、東部の窪川台地周辺では広く集落が形成されているが、山間部では谷間に沿って人口が分布していることがわかる。

図：四万十町の人口分布 [125mメッシュで表示]



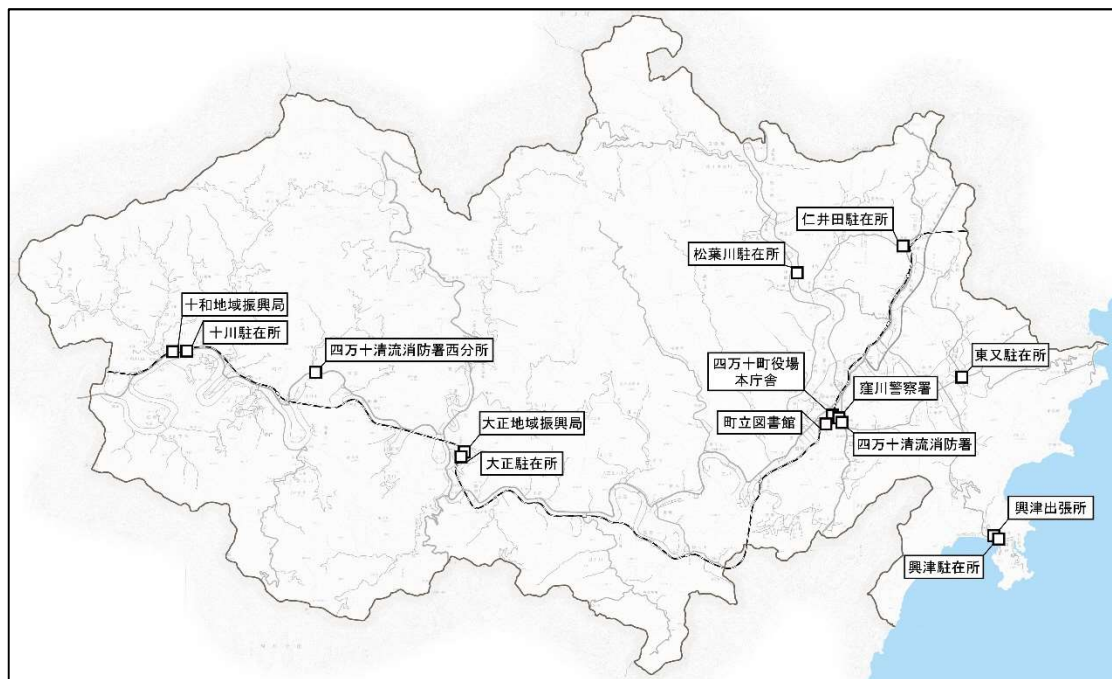
出典：平成27年国勢調査より

3. 四万十町の主要施設分布

1) 公共施設

本町内の公共施設は、旧自治体役場を中心に立地している。

図：公共施設の分布



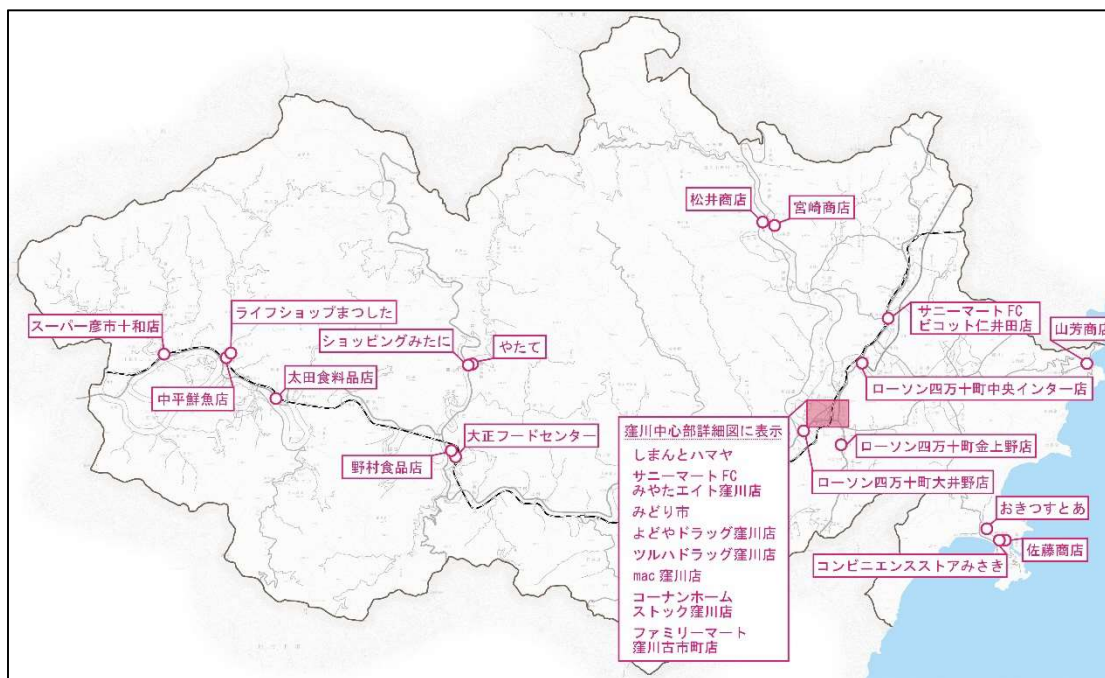
写真：大正地域振興局（左）、十和地域振興局（右）

2) 商業施設

本町の商業施設は、窪川地区にその多くが集積している。

大正地区、十和地区では、地区内で数少ない商業施設が駅の近くに立地している。

図：主な商業施設の分布



出典：タウンページ高知県版より、スーパー、食料品店、コンビニエンスストアを抽出
また、地区別ヒアリングの結果を反映



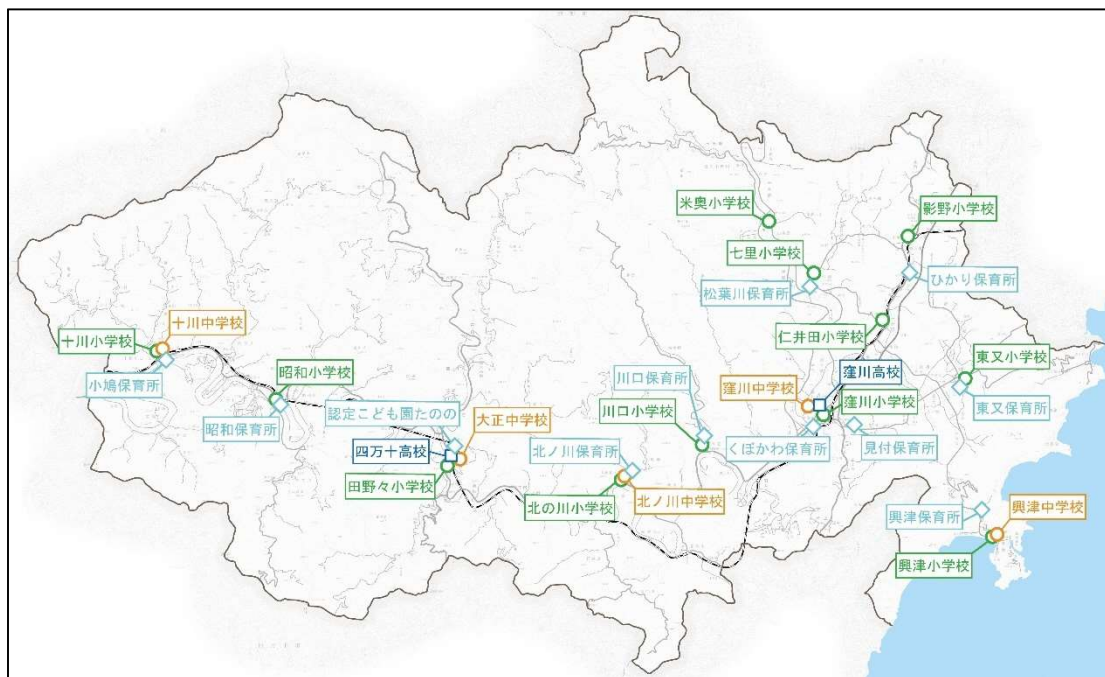
写真：しまんとハマヤ（左）、みどり市（右）

3) 学校施設・保育所

学校施設及び保育所は、人口の多い窪川地区では窪川中心部以外の集落にも立地している。

大正地区及び十和地区では、人口の集まる国道 381 号沿線に立地しており、山間部の学校施設及び保育所は閉鎖されている。

図：学校施設・保育所の分布



□ 児童・生徒数の推移

表：四万十町内における小学校児童数及び中学校・高校生徒数

[平成 31 年度小学校・中学校 児童数（令和元年年 5 月 1 日現在）]

学校名	平成 27 年 (2015 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 29 年 (2017 年)	平成 30 年 (2018 年)	平成 31 年 (2019 年)
仁井田小学校	39	35	33	33	31
影野小学校	36	32	24	22	20
七里小学校	52	53	56	50	49
米奥小学校	16	16	14	15	16
窪川小学校	274	283	290	296	288
川口小学校	42	41	32	30	25
東又小学校	66	71	72	67	62
興津小学校	30	25	23	22	22
田野々小学校	81	64	61	54	51
北ノ川小学校	30	30	30	25	28
十川小学校	59	53	52	50	43
昭和小学校	37	33	31	30	31
小 計	762	736	718	694	666
窪川中学校	270	275	271	261	258
興津中学校	11	12	6	9	4
大正中学校	58	59	56	54	39
北ノ川中学校	17	16	17	18	18
十川中学校	39	49	45	46	40
小 計	395	411	395	388	359
窪川高校	99	113	101	92	78
四万十高校	65	62	53	51	59
小 計	164	175	154	143	137
合 計	1,321	1,322	1,267	1,225	1,162

出典：四万十町教育委員会資料

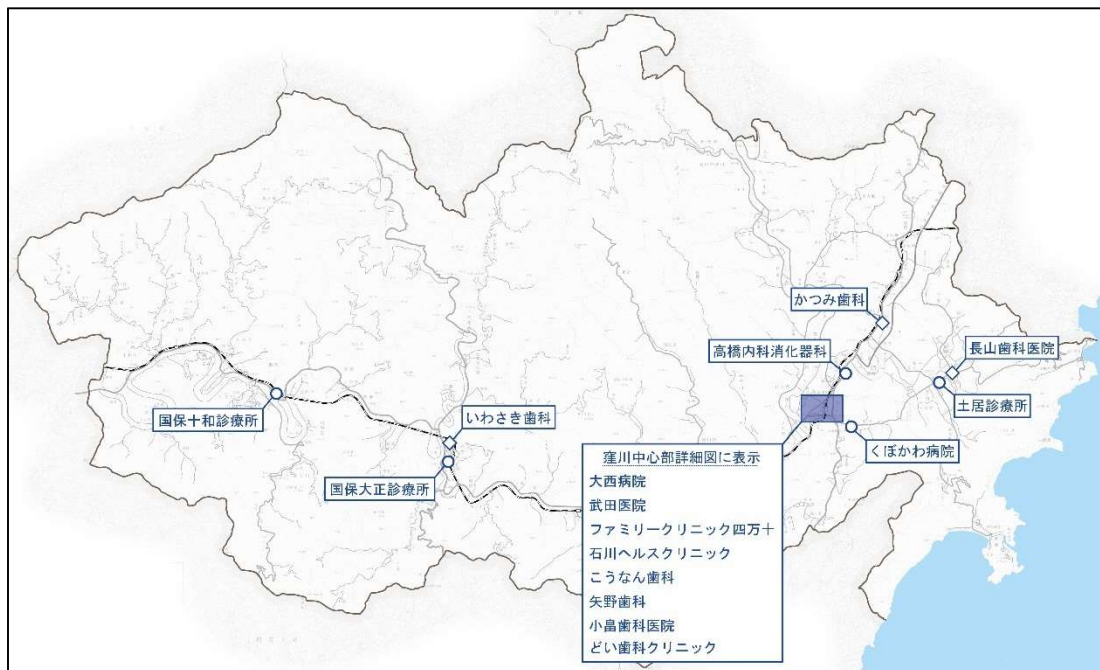
4) 病院・診療所

本町の病院・診療所施設全 16 施設内、窪川地区に 13 施設が立地している。

十和地区には国保十和診療所のみであり、大正地区も同じく国保大正診療所といわさき歯科があるのみとなっている。

くぼかわ病院、大西病院、国保大正診療所、国保十和診療所は独自に通院バスを運行しており、他にもタクシーに委託して通院患者の通院を支援している病院もある。

図：病院・診療所の分布

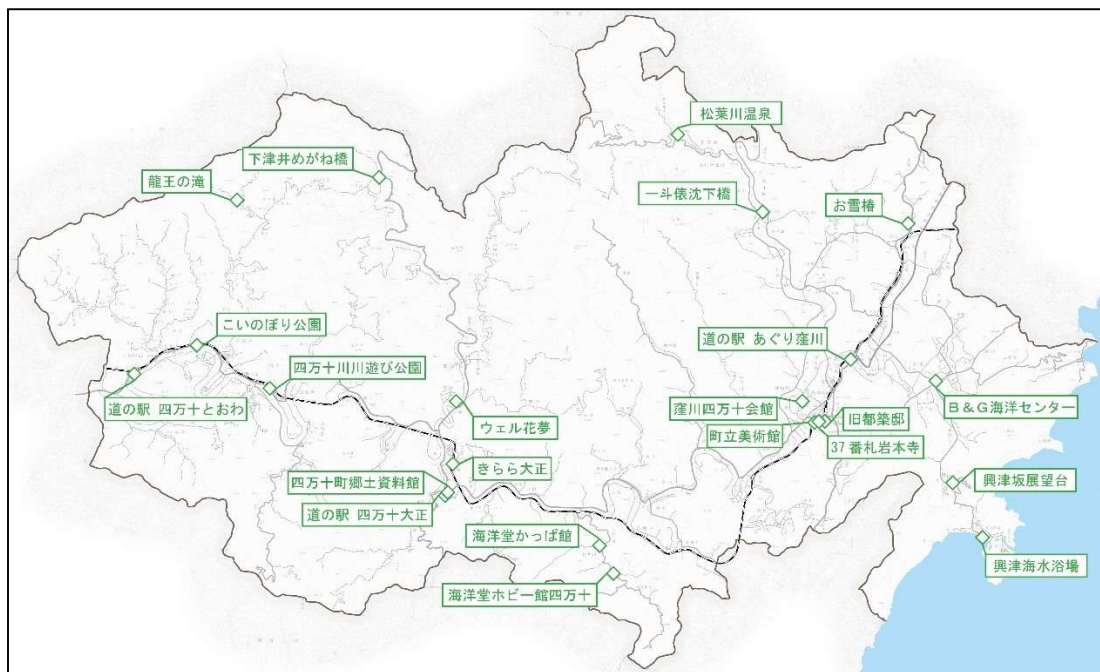


写真：国保十和診療所（左）、国保大正診療所（右）

5) 観光関連施設

本町内には広く魅力のある観光施設やスポットが点在している。

図：観光・娯楽施設の分布



写真：海洋堂ホビー館四万十（左）、下津井めがね橋（右）

(1) 来訪者の動向

本町の主要観光施設への年間入込客数は 77 万人、主要観光イベントの年間来場者数は 33,100 人（いずれも平成 27 年）となっている。第 2 次四万十町総合振興計画における令和 3 年度の目標値は年間入込客数で 96 万人（+19 万人）、主要観光イベントの年間来場者数で 42,900 人（+9,800 人）と設定されている。

近年の全国的な特徴として、四万十町のゲストハウスにも外国人宿泊客（ゲストハウス 40010：平成 28 年に 145 人）が増えているとのことである。

表：四万十町内観光施設等利用状況

	平成 27 年 (2015 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 29 年 (2017 年)
ウェル花夢	5,640 人	5,186 人	4,574 人
海洋堂ホビー館 四万十	48,322 人	44,206 人	30,230 人
海洋堂かっぱ館	25,938 人	21,953 人	14,997 人

出典：高知県庁ホームページ「県外観光客入込・動態調査報告書」より

(2) 本町で開催される集客イベント

2 月	志和薬師寺大祭 四万十街道ひなまつり	7 月	マリンフェスタ興津 金太郎夜市 どろんこ運動会 熊野神社夏季大祭
3 月	四万十川桜マラソン		
4 月	家地川公園 桜まつり 松葉川温泉まつり 四万十川鯉のぼりの川渡し 一斗俵丸太鯉川渡し 四万十川川開きリバーフェスタ四万十 大正浪漫ふあっしょんしょう 五在所ノ峯ハイキング	8 月	高岡神社夏季大祭 四万十川まつり 窪川まつり花火大会 志和花火大会 興津ふるさとこども祭り 四万十大正あゆまつり 幡多神楽夜間公演
5 月	よってこい四万十 大正ふるさと市 四万十手仕事市 松葉川山シャクナゲトレッキング 奥四万十トレイルレース	10 月	しまんと生姜収穫祭 興津八幡宮秋季大祭 四万十川ウルトラマラソン 高南地域畜産フェスティバル・コスモス祭り 志和天満宮大祭・志和諏訪神社祭 星神社大祭
6 月	下津井ホテルの遊覧船 国際交流地区民運動会 in 松葉川	11 月	米こめフェスタ 台地まつり・谷干城まつり 熊野神社秋季大祭 高岡神社秋季大祭 四万十町西部地区産業祭 中津川もみじまつり 下津井仁井田神社秋季大祭
		12 月	志和ふるさとまつり

6) 窪川中心市街地の様子

本町の中心部である窪川地区中心部を拡大してみると、多様な施設が集積していることがわかる。

窪川駅を中心に半径 400m圏内に銀行や郵便局などの金融機関が立地しており、800m圏内では、ほぼ全ての中心部に立地する施設が納まっている。

平成 26 年に四万十町役場庁舎が立て替え移転するまでは、窪川駅を挟んで東西に移動するためには大きく迂回する必要があったが、現在は役場の東庁舎と西庁舎をつなぐ自由通路（町道窪川中央線）により行き来がしやすくなっている。

図：窪川中心部詳細図



地図：国土地理院地図を加工して作成



写真：東西の役場庁舎を繋ぐ町道窪川中央線

4. 通学及び通勤流動

本町の通学及び通勤流動を見てみると、流入が 849 人、流出が 939 人となっており、流出が流入を上回っている。流出の内訳では須崎市への通勤が最も多く 209 人、次いで中土佐町への通勤が 171 人となっている。

通学流出は 212 人で、多いところでは高知市へ 100 人、須崎市へ 54 人が通学している。

流入では、通勤が 840 人となっており、黒潮町からの通勤が 182 人と最も多く、次いで中土佐町からが 160 人となっている。通学の流入は非常に少ない。

表：常住人口と昼間人口

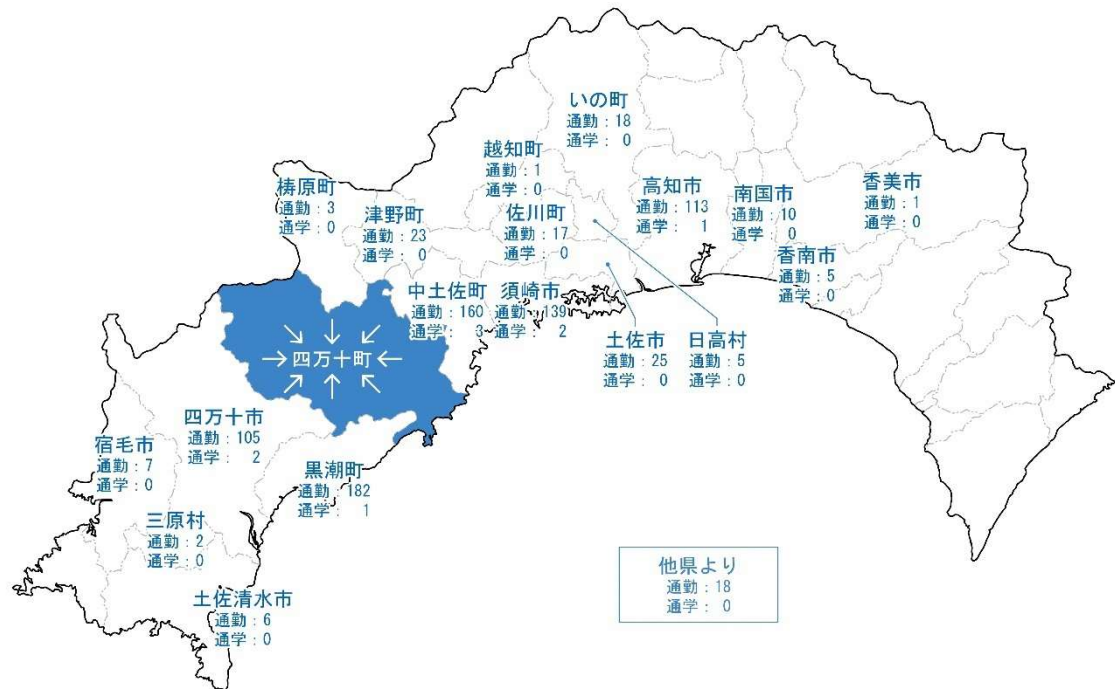
常住人口 (夜間人口)	昼間人口	昼夜間人口差	昼夜間人口比率
17,325 人	17,235 人	▲90 人	99.5 %

表：四万十町を中心とする通勤・通学流動（平成 27 年 単位：人）

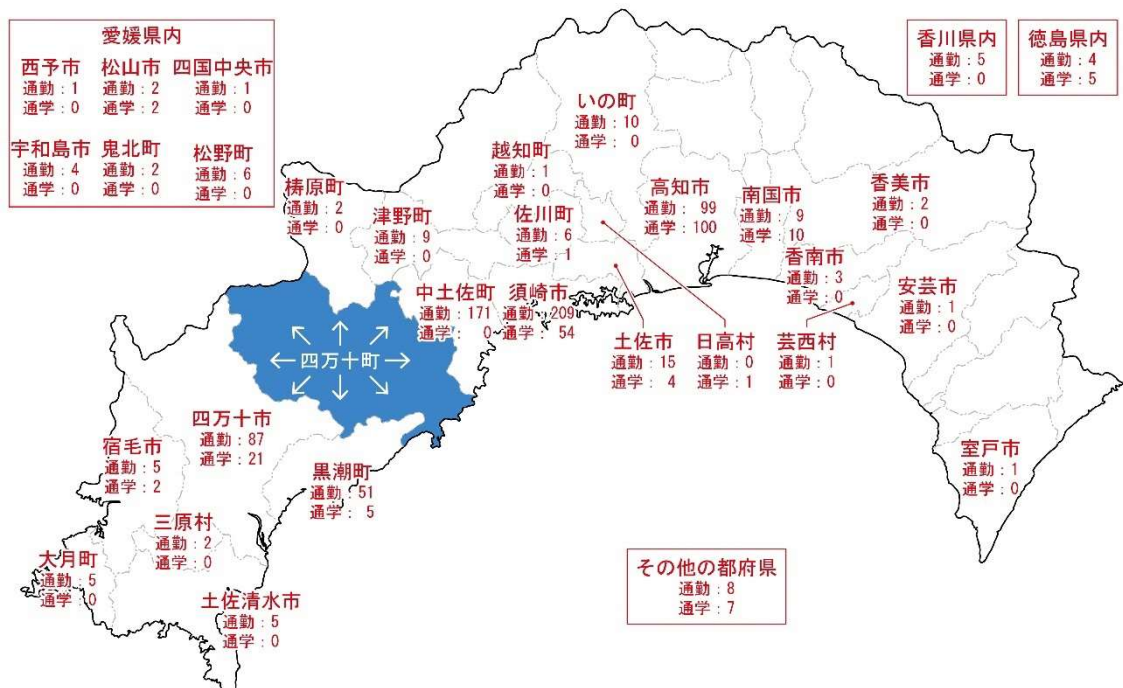
	(四万十町へ) 流入			(四万十町から) 流出		
	総計	通勤	通学	総計	通勤	通学
高知市	114	113	1	199	99	100
室戸市	0	—	—	1	1	—
安芸市	0	—	—	1	1	—
南国市	10	10	—	19	9	10
土佐市	25	25	—	19	15	4
須崎市	141	139	2	263	209	54
宿毛市	7	7	—	7	5	2
土佐清水市	6	6	—	5	5	—
四万十市	107	105	2	108	87	21
香南市	5	5	—	3	3	—
香美市	1	1	—	2	2	—
芸西村	0	—	—	1	1	—
いの町	18	18	—	10	10	—
中土佐町	163	160	3	171	171	—
佐川町	17	17	—	7	6	1
越知町	1	1	—	1	1	—
檮原町	3	3	—	2	2	—
日高村	5	5	—	1	—	1
津野町	23	23	—	9	9	—
大月町	0	—	—	5	5	—
三原村	2	2	—	2	2	—
黒潮町	183	182	1	56	51	5
他県	18	18	—	47	33	14
合計	849	840	9	939	727	212

出典：平成 27 年国勢調査結果より

図：四万十町への通勤・通学流動（流入）



図：四万十町からの通勤・通学流動（流出）



5. 消費動向

1) 消費動向

平成 28 年度 県民消費動向調査（高知県）より、本町民が買い物に赴いている自治体について、買い物区分別に値の大きいものを抽出すると次の表の通りとなっている。

最寄品や生鮮食品は町内で購入する率が高くなっているが、買回品や中間品については高知市の割合が高くなっている。

本町民が町内で買回品を購入する割合は極端に低く（2.8%）となっている。

表：本町民の区分別購入先の概要

購入する自治体	区分	量販店	ドラッグストア	大型の専門店	商店	直売店	その他	地元購買率
四万十町内	最寄品	59.9%	13.2%	0.7%	4.5%	1.3%	3.5%	83.1%
	買回品	1.0%	—	—	0.6%	—	1.2%	2.8%
	中間品	8.5%	21.4%	0.3%	9.4%	—	1.9%	41.5%
	生鮮食品	71.6%	0.8%	0.3%	5.3%	2.7%	3.5%	84.2%
高知市	最寄品	3.0%	0.7%	0.3%	0.2%	—	0.4%	
	買回品	45.3%	—	8.0%	1.9%	—	1.4%	
	中間品	23.0%	0.9%	3.9%	0.8%	—	0.6%	
	生鮮食品	2.7%	0.3%	—	—	—	0.5%	
四万十市	最寄品	0.3%	0.1%	—	0.2%	0.1%	—	
	買回品	2.5%	—	3.2%	0.5%	—	0.4%	
	中間品	0.9%	0.1%	1.9%	0.3%	—	0.1%	
	生鮮食品	0.3%	—	—	0.3%	0.2%	—	
須崎市	最寄品	0.8%	0.8%	—	0.1%	—	0.1%	
	買回品	0.7%	—	1.4%	1.0%	—	0.2%	
	中間品	0.9%	1.2%	1.9%	1.5%	0.1%	0.7%	
	生鮮食品	0.7%	0.3%	—	—	—	—	
愛媛県 宇和島市 周辺	最寄品	3.7%	0.5%	0.4%	—	0.1%	0.3%	
	買回品	0.8%	—	1.2%	—	—	—	
	中間品	1.5%	1.4%	2.2%	0.6%	—	0.2%	
	生鮮食品	4.2%	—	0.2%	—	0.2%	0.3%	

平成 28 年度 県民消費動向調査（高知県）より

表の見方

- ・最寄品は代表的品目である生鮮食品、一般食料品、日用雑貨・台所用品の平均
- ・買回品は代表的品目である紳士服、婦人服、くつ・カバンの平均
- ・中間品は代表的品目である医薬品・化粧品、書籍・文具、シャツ・下着類の平均
- ・生鮮食品は肉、魚、青果の平均
- ・最寄り品、買回品、中間品、生鮮食品の区分毎に、1 位の購入先を 、2 位の購入先を で表示

6. 自動車の運転

1) 運転免許の所持

本町の住民の内、自動車運転免許を所持する人は令和元年 10 月 1 日現在で、11,455 人となっている。この内 65 歳以上の免許所持者は 4,342 人、90 歳以上は 46 人となっている。

表：四万十町内の自動車運転免許所持者数の概要

	人数	備考
自動車運転免許所持者	11,455 人	全人口の 71.5%に相当
内、65 歳以上	4,342 人	
内、90 歳以上	46 人	

出典：窪川警察署資料より

2) 交通事故の概要

本町における交通事故（人身事故）発生件数の推移を見てみると、減少傾向にあることがわかる。高知県全体の数値も同じく減少傾向にある。

人口千人当たりの発生件数で見ると、平成 26 年には 1.61 件であったものが平成 30 年には 0.84 件と大幅に減少していることがわかる。

表：交通事故発生件数の推移（人身事故のみ集計）

		平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
高知県	実数	2,690 件	2,391 件	2,193 件	1,790 件	1,613 件
	人口千人当たり	3.63 件	3.26 件	3.02 件	2.49 件	2.26 件
四万十町	実数	29 件	28 件	20 件	15 件	14 件
	人口千人当たり	1.61 件	1.59 件	1.16 件	0.88 件	0.84 件

※ 人口千人当たりの件数は各年の 1 月における推計人口（高知県統計分析課）にて算出

出典：窪川警察署資料より

表：令和元年（1 月 1 日～9 月末）の交通事故における高齢者の割合

		事故発生件数	死亡	負傷
高知県	県全体	1,114 件	23 人	1,221 人
	内、高齢者の数	485 件 (43.5%)	18 人 (78.3%)	291 人 (23.8%)
四万十町	町全体	10 件	2 人	15 人
	内、高齢者の数	9 件 (90.0%)	2 人 (100%)	7 人 (46.6%)

出典：窪川警察署資料より

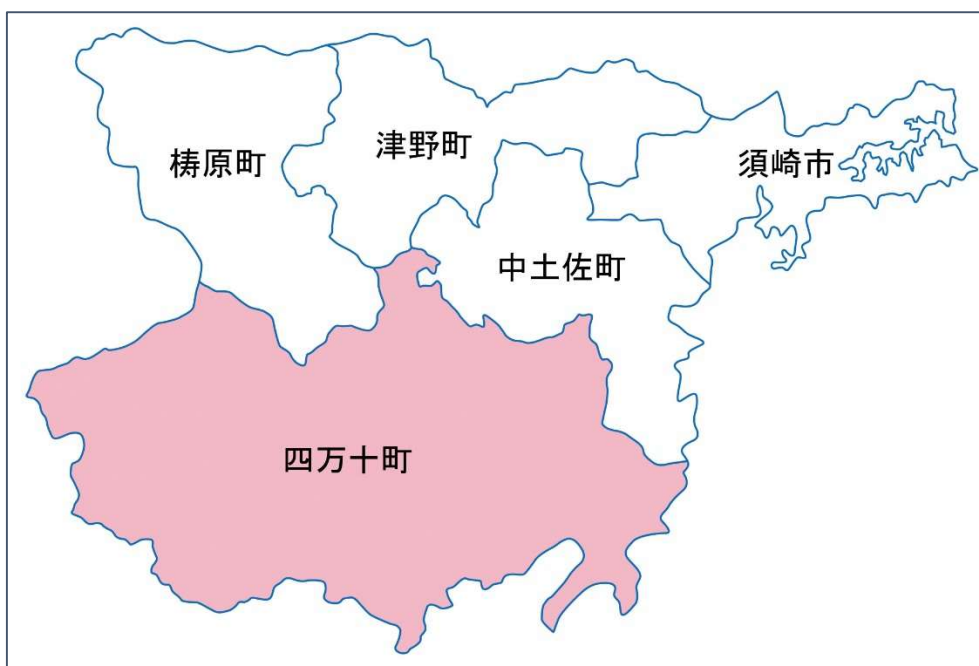
7. 広域的視点からの四万十町

1) 高幡広域市町村圏事務組合

四万十町、須崎市、津野町、梶原町、中土佐町の5つの市町で形成し、構成する市町の事務の一部を共同処理している。

中学生の海外研修事業や青少年育成事業、観光情報発信のほか、介護保険の認定審査事務や須崎斎場の管理運営などを行っている。

図：高幡広域市町村圏事務組合を構成する自治体



表：高幡広域市町村圏事務組合構成自治体の概要（平成 27 年）

	面積 (km ²)	人口 (人)	人口密度 (人/km ²)	人口増減率 (%)
四万十町	642.30	17,325	27.0	-7.5
須崎市	135.44	22,606	166.9	-8.5
中土佐町	193.28	6,840	35.4	-9.8
津野町	197.85	5,794	29.3	-9.6
梶原町	236.45	3,608	15.3	-9.4
合 計	1,405.32	56,173	39.97	-8.5

※人口増減率は平成 22 年国勢調査結果と比較

出典：平成 27 年国勢調査結果より